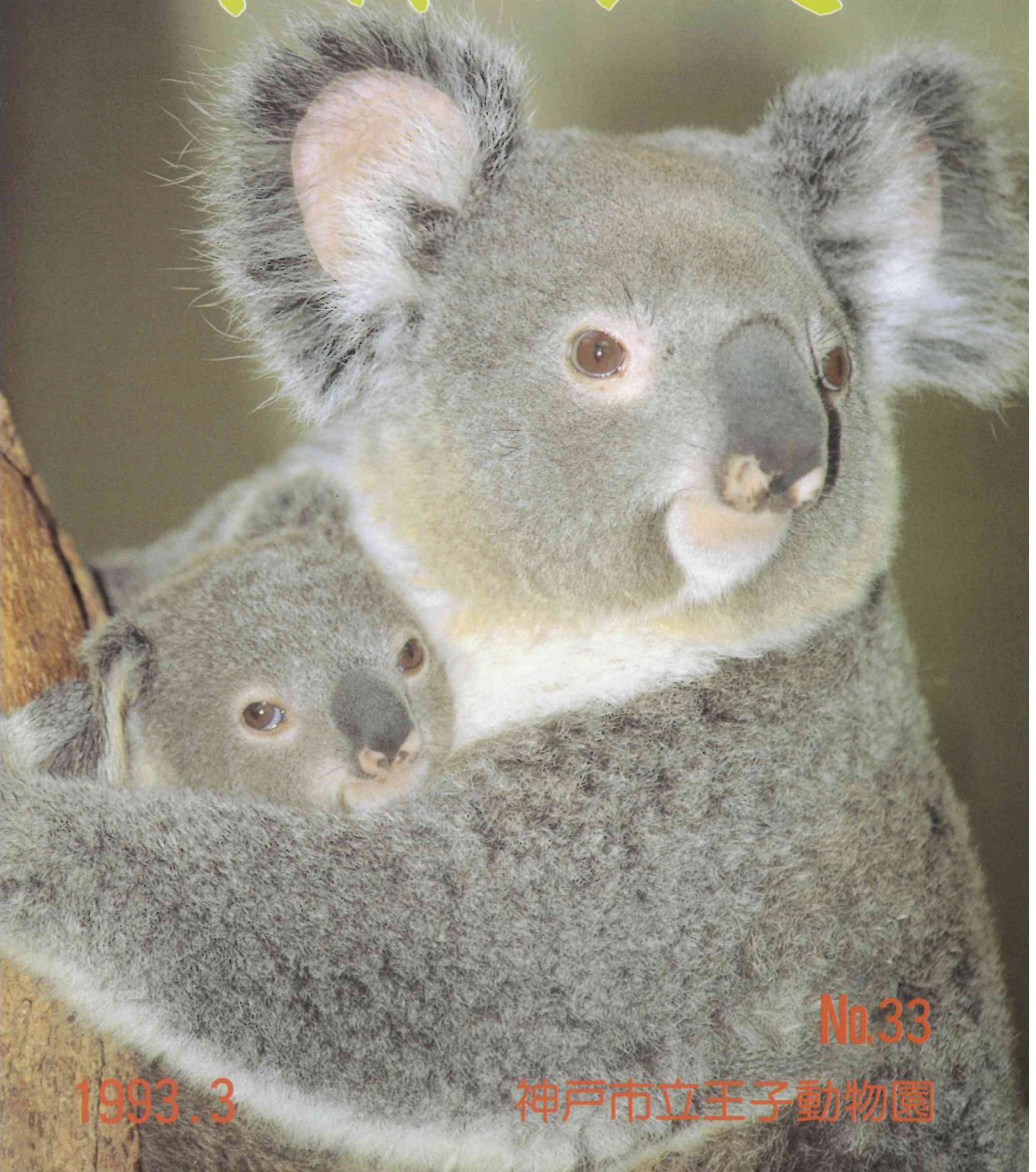


はばたき



No.33

1993.3

神戸市立王子動物園

自然との共生

を求めて

今、この地球上にはおよそ150万種の動物が生息していると言われている。これらの動物は年々きびしくなる地球の環境と闘いながら力強く生き続けているが、中には姿を消した種類も少なくはなく、その数は近年急速に増えていることは申すまでもない。

人も150万種の動物の一種にしか過ぎないが自然界の頂点に立って全てを支配しているのである。人と人以外の動物を比較した場合、異なっている点が二つあると思う。まず一つは頭が大きい、即ち頭脳が発達していること、もう一つは手を持っていることではないかと思う。人は進化の過程で2本の足で立ち、歩くことや走ることを覚えた。当然前足が要らなくなり手としての機能を身につけるようになった。そして、優れた頭脳と手をもって様々な文化を考え出したのだらう。この文化によって人の生活は便利になり豊かになってきた。われわれ人類はこの恩恵に浴し豊かな文化生活を営んでいるのである。

しかし、これらの文化をよく考えると、たしかに人類の繁栄には多大の功績を残したことは事実であるが、反面、そのために自然がかなり犠牲になったことも忘れてはならない。自然が破壊され、そこにすむ動物や植物が絶えてしまう、そのことがやがては人類の破滅につながることになるであらう。優れた頭脳の持ち主である人類がこのことに気がつかないはずがない。いや気がついていても人類優先の原則から自然をおきざりにされたのかもしれない。

今、日本の各地には高速道路がつくられ、人の生活にとっては非常に便利になり喜ばしいことであるが、しかし、その周辺に生息していた動物は生活の場を分断され無理に道路を横切ろうとして車にはねられ、命を落とした動物も少なくはない。このため、最近は動物だけが通るけもの道がつくられると聞いている。また、河川改修にも3面コンクリートではなく自然を残しながら改修する方法がとられるという。これは一例にすぎないが、これからはこのような自然に思いやりのある施策を望まれるであらう。

最近、地球にやさしく、という言葉がよく聞かれる。このかけがえのない地球を守るためには、人は自然界に生きる全ての生物の「リーダー」として、また、仲間として自然界の意見をくみ

取って自然と共存する世界を目指そうではないか。

神戸市立王子動物園長

谷岡正之

もくじ

	ページ
1. 自然との共生を求めて	②
2. 金絲猴	③
1) 日中共同研究	③
2) 北京瀕危動物馴養繁殖センターと金絲猴	③
3) 第2次金絲猴研究チーム自己紹介	④
3. 動物育児日記	⑤
1) コアラの赤ちゃん誕生	⑤
2) フレミッシュジャイアンツの保育	⑦
4. 動物園のとりたちです	⑧
5. 飼育うらばなし	⑩
1) ゴリラのお嫁入り	⑩
2) アシカ池新設	⑪
6. 動物なぜなぜ問答	⑫
1) 鳥達はどんな姿で寝るのでしょうか	⑫
2) ニワトリのトサカはなぜあるの?	⑫
7. 動物もの知り手帳	⑬
8. 動物科学資料館の手引	⑭
9. トピックス	⑮

表紙写真：コアラの親子

(クィーンズランドコアラ)

写真撮影：谷岡 正之

英名：Queensland Koala

学名：Phascolarctos
cinereus adustus

生息地：オーストラリア

～10月まで展示期間延長～

金 絲 猴

日中共同研究

絶滅に瀕する金絲猴を保護するため、中国政府は保護法を作り、金絲猴を捕まえる人に厳しい制裁を加えるようにしました。また、1985年に金絲猴とチュウゴクニジギジの繁殖を目的とした研究機関「北京瀕危動物馴養繁殖センター」を設立しました。このセンターは、外国との動物交換と絶滅に瀕する野生動物の応急手当をして自然に返すのが主な仕事です。

北京瀕危動物馴養繁殖センターは、北京市から南に50kmの森林公園の中にあります。そこは、景色がとても美しく、金絲猴の野生環境に近いものとなっています。センターの面積は17haで82名の職員中1/2以上が専門研究者です。約32種類 600点の動物を飼育しています。

1987年春に陝西省から「川金絲猴」を10頭（オス3頭、メス7頭）取り寄せて飼育繁殖研究を始め、5年で9頭の繁殖に成功し、その中の1頭は3代目です。その後に取り寄せた9頭と合わせて現在28頭飼っており、人工で金絲猴を飼育する頭数は世界一です。

数年来、8回の流産と死産に対して病理的分析を行った結果、妊娠中毒が最も大きな原因であり、金絲猴の繁殖に大きな影響を与えました。

センターの金絲猴は友好の使者として、アイルランド共和国、アメリカ合衆国のオハイオ州・カリフォルニア州で展示されました。

金絲猴に対する研究は、国内及び海外の援助と協力を得まして、北京大学と合同で、獣舎で飼育されている金絲猴の群の構成と繁殖行動について研究を行いました。そして、アメリカ合衆国のサンディエゴ動物園と合同で金絲猴の繁殖行動と内分泌について研究し、成果も修めました。

今回、神戸で1年間の金絲猴の展示をすることで一般の方々に金絲猴を紹介するのは当然のことですが、もっと重要なことは、金絲猴についての研究です。いわゆる繁殖行動とホルモンの関係、繁殖の季節的原因、妊娠中の測定などです。そして、今まで日中両方の努力で性周期のホルモンと行動及び妊娠中のホルモンの変化について研究をして成果も修めました。この結果人工繁殖のために重要なデータが集まり、金絲猴の毛並の変化と生態学についての研究及び金絲猴の群で繁殖する研究に対して、礎が打たれました。



北京瀕危動物馴養繁殖センターと金絲猴

中国のある地域の森林に生息している数少ない金絲猴という貴重な動物は、人間による森林伐採によって、生活する場所がだんだん狭くなり、そして、密猟されました。このため、金絲猴の群れでの生活や繁殖行動が破壊されました。現在、野生の金絲猴は中国の四川省、陝西省、甘肅省、貴州省、雲南省及び湖北省に分布しています。飼育下の金絲猴は全国で100頭ぐらいで、約10カ所の動物園と保護した飼養場で飼育されています。世界で金絲猴を見ることが出来る人はパンダを見れる人よりずっと少ないでしょう。

金絲猴の金色の毛皮、上を向いている鼻がチョウチョウのようで、どんなに見ても飽きないほどかわいらしいです。特に、彼らの情愛表現である抱き合いと毛づくろいの動作は、人間がいかに自分の仲間に思いやりの心を与えるかを教えられます。

(北京瀕危動物馴養繁殖センター副総経理 戚 漢君)



日中共同研究期間の6カ月延長(10月まで)が認められ、詳細協議のため中国代表団が来神されました。(2月28日～3月9日)

第2次金絲猴研究チーム

自己紹介

周 玉富（北京瀕危動物馴養繁殖センター飼養科長）



1954年に北京動物園で野生動物を飼育していきまして、58年に雲南省と湖南省に動物を探しにいきました。2年後動物園に戻って動物飼育の仕事の続けました。数十年来、飼育の仕事が続けているので、経験も豊富になり、飼育に対しての認識も深くなりました。

私は、野生動物の飼育と繁殖の仕事に特別な意義があると思います。まず、野生動物というものは、人工的に飼育されていないか、または、されていても人工飼育期間が短い動物のことです。このため、飼育に関する管理方法や餌の栄養摂取、繁殖についての技術を確立させる必要があります。これらのことを解明することは、野生動物の保護に役立つと思います。特に経済的に価値のある動物は最も重要です。ですから、野生動物の飼育科学研究の仕事は、創造的な仕事だと思います。

私は、1988年5月に北京瀕危動物馴養繁殖センターに転属し、飼育管理の仕事を中心にしています。今回、私は王子動物園に来て日中双方で金絲猴飼育研究を行っておりますので、この仕事は必ず成功すると思います。

・家族 妻と娘の3人家族 ・趣味 映画と写真撮影

鄧 波（北京瀕危動物馴養繁殖センターエンジニア）



1987年に東北林業大学野生動物学部を卒業、その年に同大学大学院に入学しました。90年に修士課程を修了し、修士号を取りました。そして、その後90年7月に北京瀕危動物馴養繁殖センターに就職し、主に金絲猴の人工飼育繁殖について研究してきました。2年間の金絲猴飼育経験を生かして、この事業を成功させたいと思っています。今回、王子動物園に来て、日本の動物園関係の皆さんからより多く、動物繁殖に関する知識を勉強したいと思っています。

・家族 妻と1才の娘の3人家族
・趣味 音楽（ポピュラーソング）

郝 樹文（天津市天津動物園飼養員）



私は、1980年1月に天津動物園に就職して5月に飼育チームに配属されました。初めは、トラの飼育を行い、約半年後、雑食動物の担当に替わり、主に霊長類、特に金絲猴などサル類の飼育を行ってきました。85年に神戸に金絲猴を連れて来て、グリーンエキスポ'85に参加しました。そのとき、日本の各界、市民の方々と種々のお話をして、神戸に親しみを感じました。王子動物園には、2回目の来園になります。このたびは、日中金絲猴共同研究のために来ましたので、大いに私の知識を奮って、この事業のために努力したいと思います。現在、私は王子動物園の皆さんと楽しく一緒に仕事をしています。今回の合作事業が必ず成功するよう信じています。私は、金絲猴の仕事をして13年になります。私は飼育の仕事がとても好きです。これからは私は、野生動物保護のため、全人類のためにささやかな力を尽くしていきたいと思っています。

・家族 妻と11才の息子の3人家族 ・趣味 京劇

動物育児日記

コアラの赤ちゃん誕生

1992年5月16日、王子動物園では初めてコアラの赤ちゃんが誕生しました。お母さんは、ジェンマ（3歳）、お父さんはエム・ジー・ジュニア（3歳）で、共に初めての繁殖でした。

交尾

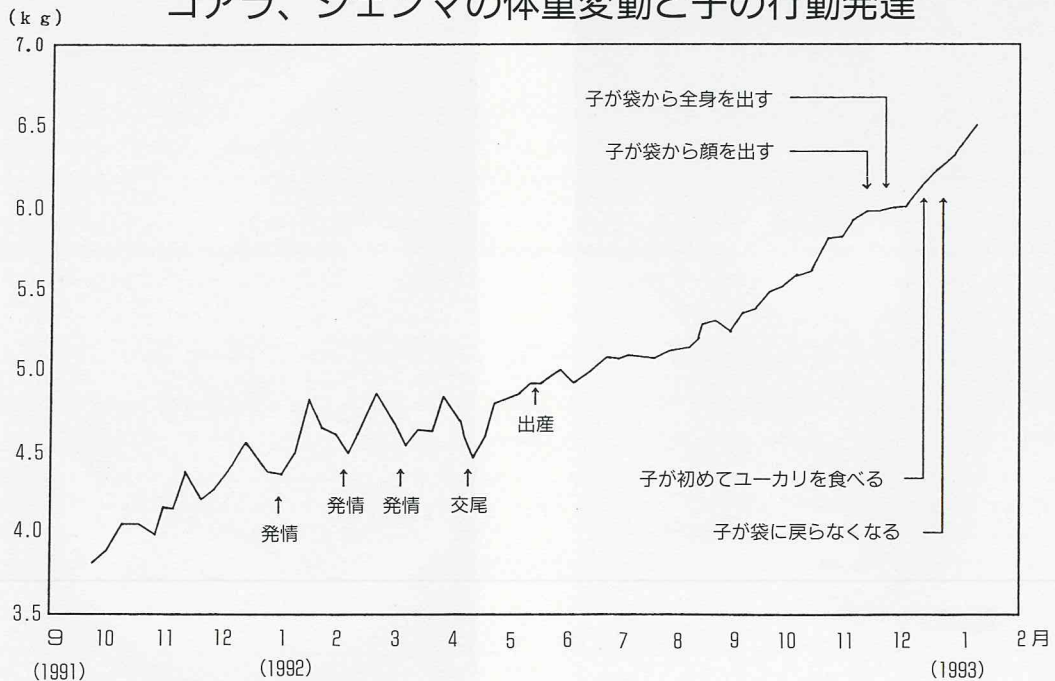
昨年4月12日、ジェンマに発情が見られ、エム・ジー・ジュニアと同居させたところ、ジェンマがエム・ジー・ジュニアに近づき誘うような形で交尾が行われました。交尾時間は約3分間でした。

出産

出産の確認はできませんでしたが、コアラの妊娠期間が約34日であることから5月16日に出産したものと思われます。交尾から35日目にジェンマの袋（育児のう）をのぞいたところ体長



コアラ、ジェンマの体重変動と子の行動発達



※ジェンマの体重は子を含めたものである

約1cmのピンク色のイモ虫のような子を確認しました。

コアラの新生児の体重は1g以下といわれています。これは1円玉よりも軽いものです。ジェンマの体重は約5000gですから、新生児の体重は親のわずか0.02%しかないことになります。ちなみに体重250kgのシマウマは約1年間の妊娠期間の後に30kgの子を産みます。これは、親の体重の12%もあり、コアラの子に比べはるかに重たいものです。このようにコアラの赤ちゃんは、胎児といった方がふさわしいぐらいに小さいものですが、そのかわりに袋の中で約6か月間も育児を行わなければなりません。

成長

初めて子を確認してからは、ジェンマのストレスを考えて袋をのぞかないようにしました。このため、成長過程を直接見ることは出来ませんでした。しかし、表に示したようにジェンマの体重は、出産直後から急激に増加していることから子の成長も順調であったものと思われます。

初めて子が袋から顔を出したのは、11月19日（217日齢）で、目も開き、毛も生えていました。11月26日（224日齢）には袋から全身を出してお母さんの胸に抱きついていました。この頃からお母さんの袋が窮屈になり、日々袋から出ている時間が長くなりました。12月13日（241日齢）初めて子がユーカリの葉を食べているのを観察しました。これ以前に子は、離乳食としてお母さんの糞を食べるのですが、今回は観察することが出来ませんでした。この糞は、通常の丸く硬いものと異なり、柔らかい液体状のもので盲腸の内容物であると考えられています。

そして、12月21日（249日齢）ついにお母さんの袋に戻らなくなりました。

現在この子は、お母さんが寝ている時はお腹に抱きつき、移動の時は背中にしがみついています。時には、親から離れ歩くこともあります。この子は今が一番かわいい時なので、ぜひ会いにお越しください。

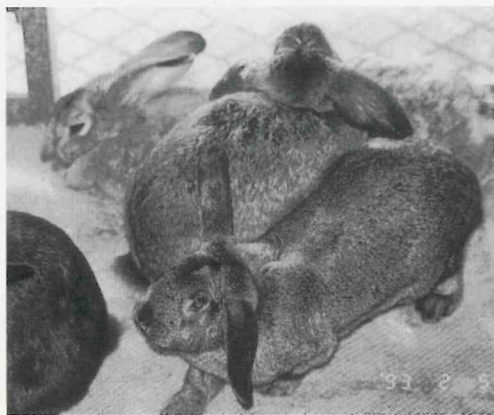
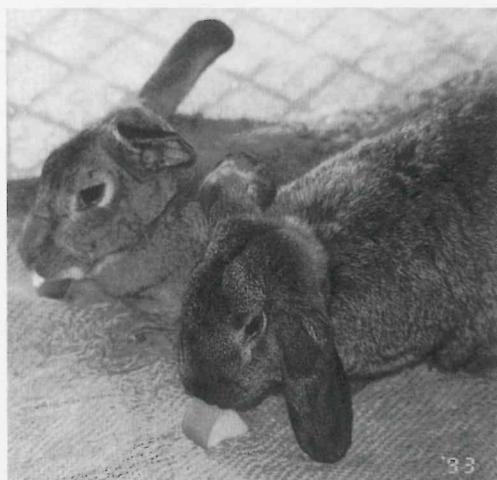
（兼光秀泰）



フレミッシュジャイアンツの 赤ちゃん保育

カイウサギの一種、フレミッシュジャイアンツが、10月14日に子供を産みました。

朝、単箱の中をそっとのぞいてみると、ちゃんと自分で、ベビーベッドを作っていました。ベビーベッドは、お母さんウサギが、ワラを、かんで柔らかくした物と自分のおなかの毛を抜いてをそっと赤ちゃんの周りに置いたものです。とてもふわふわしていて、暖かそうです。フレミッシュジャイアンツの赤ちゃんは、お母さんが作ってくれた、ベビーベッドの中で、もぞもぞと動いていました。赤ちゃんは生後1週間ほど、このベッドの中で、すくすく育ちます。生後2週間、ベッドのふわふわの毛も少しずつ、しぼみはじめてくると、子供の体には、黒っぽい毛が少し生えてきました。でもまだ目は開いていませんでした。生後3週間もたつと、子供



たちは、目も開いて箱の中を走り回るほどになりました。時々、子ウサギたちが、箱の中を、おもいっきり走って、ジャンプした瞬間、お母さんの顔に、ぶつかったりするので、困ったものです。でも、やさしいお母さんは、そんなことでは怒ったりしません。子供たちが成長するにつれて、だんだんと巣箱が狭くなってきたので、広い部屋に移しました。

何日か過ぎたある日、子ウサギたちの耳を見た時、おかしいことに気付きました。フレミッシュジャイアンツなのに耳が片方だけ垂れているのです。「もしかして、少し耳の力を抜いてい

るのかしら」と思いました。

それから、日がたつにつれて、子ウサギたちの耳は、片方ずつ垂れていきました。

なんだか、垂れ耳のロップイヤーにそっくりです。顔もすっきりスマートなフレミッシュジャイアンツではなく、ロップイヤーのぶくぶくした顔に似ています。

その時、「あっ」と思いました。「もしかしてお父さんは、ロップイヤーなのでは？」そうこう考えている間に、子ウサギの耳は全部垂れてしまいました。子ウサギたちが生まれる1ヵ月前によくフレミッシュジャイアンツは、ウサギ小屋の北側の木の下によく遊びに行っている姿を見かけました。ちょうどその時に展示していたロップイヤーとばったり出会ってお互い好きになって、今の子供達が産まれたのでしょうか。種類が何であれ、子ウサギたちには関係ありません。

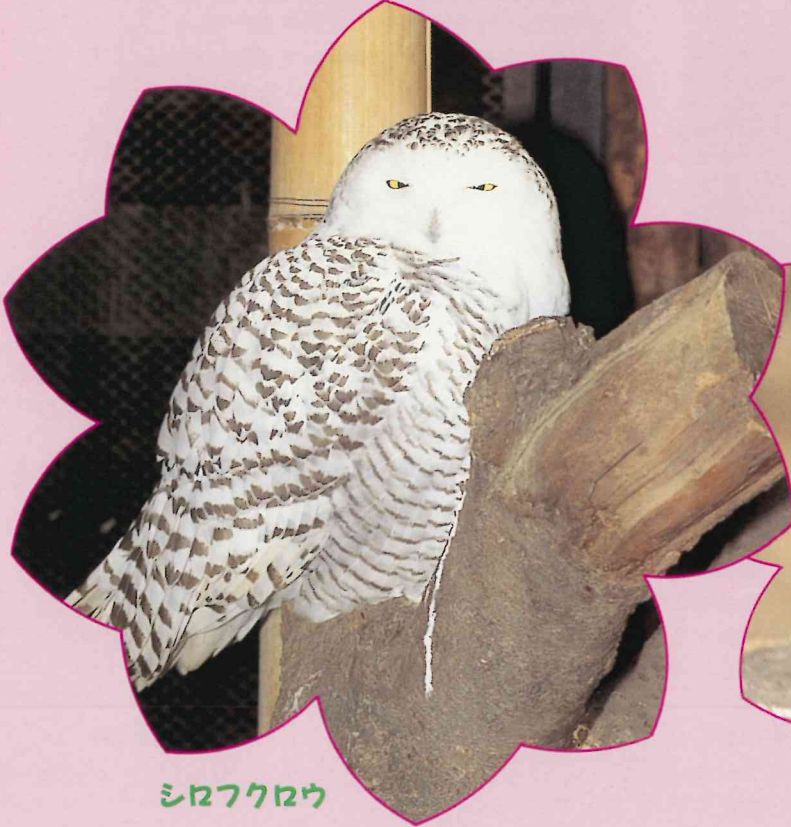
今では、すっかり大きくなり、小屋の中で、つまみ食いや、他のウサギにちょっかいを出してケンカもしています。とてもおてんばな女の子たちです。時々、ふれあいコーナーで、モルモットと一緒に出てきます。その時は、どうぞ仲よく遊んであげてください。

(上羅智子)

動物園のと



カンムリヅル



シロフクロウ



コゲラ

りたちです



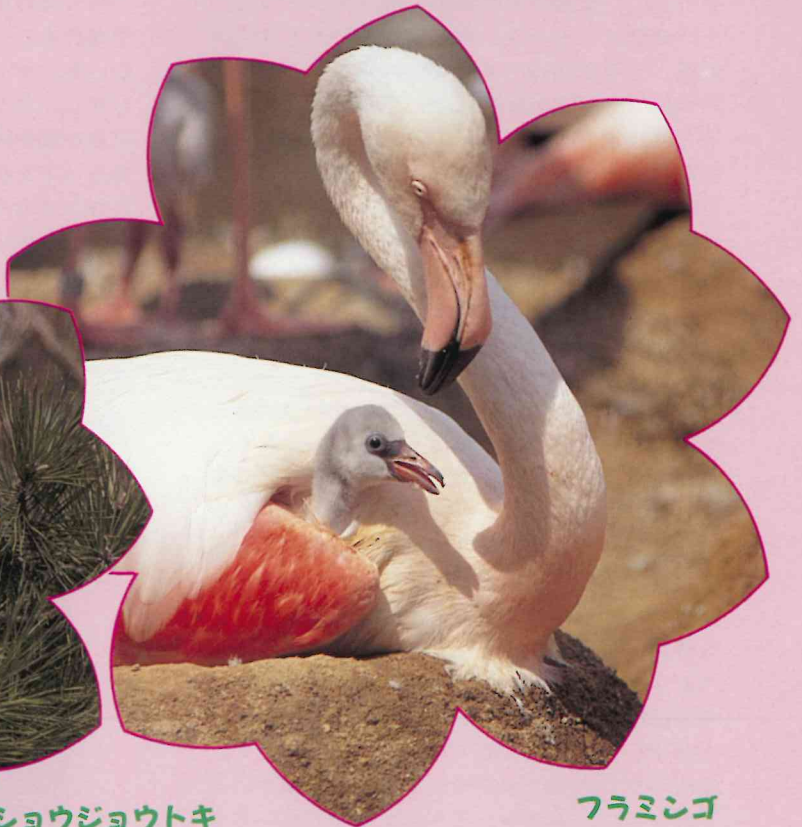
ニワトリ



ダチョウ



シヨウジョウトキ



フラミンゴ

飼育うらばなし

ゴリラのお嫁入り！

昨年11月25日、ローランドゴリラのヤスコ(康子15才)が京都市動物園にお嫁入りしました。

〈4才で神戸に来たケンタとヤスコ〉

神戸でゴリラの繁殖をしようと2頭の若いゴリラを導入したのは、1981年6月22日。2頭共4才、人間でいえば小学生、とっくみあたり、ころがったり、やんちゃざかりのかわいい2頭でした。健康に育つようと、オスは健太(ケンタ)メスは康子(ヤスコ)と名付けました。

しかし、成長するにつれ私達の期待とは違い、夫婦ではなく兄弟のように育っていることに気がつきました。

繁殖例のある動物園の飼育を参考にして、餌もセロリ、バンセイナ、チンゲンサイなど野菜を中心に、季節の果物を多く取り入れました。そのほかソーセージ、牛乳などを加え1日に20数種、オスで10kgメスで6kgの餌を与えました。その他にも、気分転換にと、クラシック音楽を流し、水槽で金魚を飼ってみたりもしました。夜間に分離飼育していたのを、1週間に2〜3日の同居飼育をして刺激を与えるという試みも行いましたが、全く交尾する様子は見られませんでした。ヤスコは、とうとう15才になり、このままでは、子供の産める年令を過ぎてしまいます。(ゴリラの性成熟は、メスで8〜9才)

〈ブリーディングローン〉

いま、世界各国の動物園では、互いに協力して希少な野生動物を、単に見せるだけでなく、血統を明らかにした上で繁殖を目的として貸借するブリーディングローンが行われています。

そこで、ヤスコをゴリラの繁殖経験のある京都市動物園にブリーディングローンで貸し出し、本格的に繁殖に取り組むことになりました。

京都市動物園には、現在オス2頭、メス2頭の計4頭がいます。オスのマック(22才)は、日本国内で最初に繁殖したゴリラで、京太郎(オス10才)元気(メス6才)の2頭の父親です。今回のブリーディングローンでは、父親のマックか息子の京太郎か、どちらか相性の良い方と同居させて繁殖に期待をかけています。

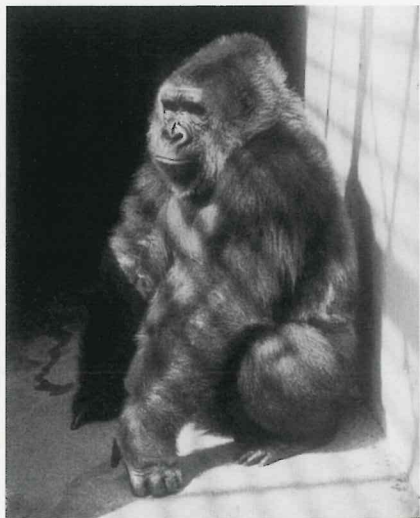
〈難しいゴリラの繁殖〉

日本でのローランドゴリラの飼育は、1957年、上野動物園で始まり、現在25園で46頭(オス25頭、メス21頭)飼育されています。繁殖例は、京都3例、栗林2例、別府1例、名古屋1例と、チンパンジーやオランウータンに比べ非常に少なく、決して順調とはいえません。

繁殖がうまくいかない理由は、いくつか考えられますが、一つには、多くの動物園で、オス、メスの2頭だけの飼育で、しかも幼児期からの同居飼育であるため、性成熟期に達しても交尾行動が見られないことがあげられます。できれば、野生同様に群れで飼育することが望まれます。

特に神経質なゴリラのことです。環境の変化で食欲をなくさないか、オリの出入りを嫌がらないか、ケンカをしないか、心配はつきません。しかし、ゴリラの飼育のベテランが揃っている京都市動物園のこと、きっとヤスコはかわいい赤ちゃんを産んでくれると思います。また、残されたオスのケンタにも新しいメスを迎えることができればと思っています。

(三角勝利)



アシカ池新設

衛生的な水で飼育

新しく作りましたプールに古いアシカプールからカリフォルニアアシカ雄1頭と雌4頭が今年の4月14日に引越し、4月23日にオープンセレモニーをします。

古いプールは昭和28年、王子動物園開園の2年後に造られたもので、プールに必要な水は毎週1回汚れた水を排水して、水道水と井戸水を併用して入れ替える方式でした。これでは夏の水温が高くなる季節は水の汚れが早く、食欲が落ちたり、病気になりやすいなど困った問題がありました。

そこで、新しいプールは動物にとって健康に暮らせ、繁殖して子孫を増やすことができ、なお、皆さんに彼らの生き生きと活動する姿を見ていただけるように工夫して施設を作りました。

一つはアシカの生息地の自然環境にできるだけ近い情景とするため、プールの中央に自然岩



を組み上げた島を造り、その中に産室の穴を開け、頂上から滝が流れ落ちる情景や植込みのあるものとししました。又、岩山の一部を飛込台のように張り出させ、活発に動き回れる場所を作りました。

二つ目は、プールの水質を常に良い状態に保つため、水の循環ろ過、殺菌ができるよう十分な能力のある設備としました。幸いなことに日量が400t使える井戸がありますので、新しいプールは夏の水温も少し低い状態に出来ます。

このプールの水量は古いアシカプールの2倍の400tで、水深も2.2mと古いプールより1mも深くなりました。

プールの水は1日8回全量がろ過、殺菌されます。殺菌方法は王子動物園で日本でも最初

使いましたオゾン殺菌法です。一般に水の殺菌は水道水のように塩素殺菌法が多いのですが、魚や水生動物にとって必要な水中の溶存酸素が減少しますので、王子ではオゾン(O³)殺菌により、水中の溶存酸素を多くし、又水の透明度を高める効果のある方法として使っています。

三つ目として、アシカが水中でのびのび遊泳する姿を皆さんに見ていただけるようにとプールの深い側にトンネル観覧通路を造りました。

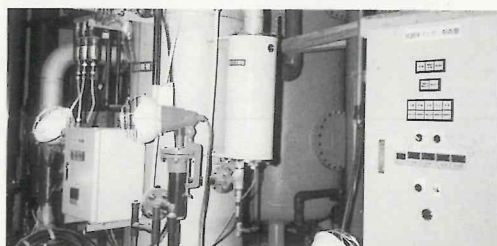
長さ20mのトンネルの中央部に幅9m、高さ1.5m、厚さ7cmのゆるくカーブするアクリルガラスの窓があります。このトンネル観覧通路の出入口にはエアーカーテンがあり、トンネル内は、夏は涼しく、冬は暖かい空調が働いており、ガラス窓が結露しないようにガラス面に送風できるようにしてあります。

プール面のガラスには水温が上がると「アオコ」が一面に発生し、水が見えにくくなりますが、この発生を減少させるためプール内の窓面に殺菌された水を強く吹き付ける設備も備わっています。この殺菌水は紫外線照射で「アオコ」の発生をおさえるため特に付け加えられました。

四つ目は子供の餌付けプールがあることです。アシカの赤ちゃんは生後1年目には乳離れをして魚を食べ始めますが、この時の餌は生きた魚が必要なのです。これまでは子供を別の水槽に入れて餌付けの訓練をしていたのですが、新しいプールではうまく餌付け訓練ができるようになります。

新しいアシカプールで水中を悠々と泳ぐアシカの群れをゆっくりご覧下さい。彼らの水中生態の新しい発見を皆様にご覧いただけるでしょう。

(権藤真禎)



— 動物 なぜ なぜ 問答 —

鳥達は、どんな姿で寝るのでしょうか。

小鳥たちは、止まり木に止まったままで寝ますが、眠っている間に木から落ちることはありません。これは、脚の筋肉から指の先まで腱(けん)というヒモのようなものが伸びていて、小鳥が木の枝に止まると自動的にこの腱が引っ張られ、脚の指が木の枝を固くつかむようになっているからです。眠っている間には脚の指がしっかりと木の枝をつかんでいるので落ちないのです。

ほかのトリ達、例えば白鳥は、冷たい氷の上で座って寝ますが、首を折りたたみ、できるだけ体を丸くしてボールのようになって寝ます。こうするほうが体の熱が逃げないのです。また、ツルは、片脚で立って寝ますが、冷たい血液と暖かい血液との間で熱を調節する装置をもっているので冬の寒いときでも脚が凍傷にならないのです。

寝る場所はいろいろですがトリ達は、首を背中に回しクチバシを肩の羽の中に入れてたり、コウノトリのように胸の羽の中にクチバシを入れて寝るのが一番眠りやすいようです。

(安田伸二)

ニワトリのトサカはなぜあるの？

今年はトリ年である。そこでトリに関する問題をひとつ。

ニワトリの頭の上には赤いトサカ(鶏冠)がある。では、なんのためにあるのか？

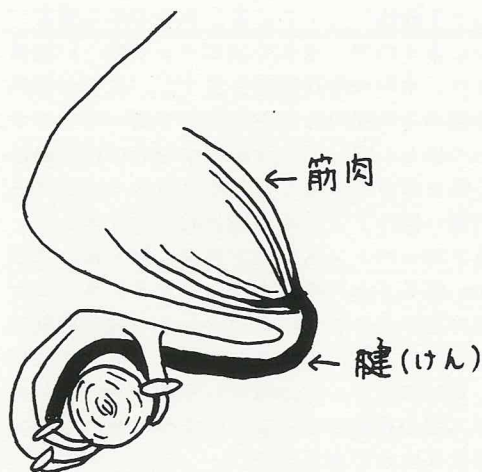
トサカが赤いのは、中にたくさんの血管が走っているからである。貧血の時にはその赤いトサカが真っ白になってしまうこともあるから病気の診断にも役立っている。しかし、そのためにわざわざトサカがあるわけではない。

トサカは雌にもあるが雄の方が立派である、というのがどうやらヒントになりそうである。ヒヨコのときには雌雄ともに目立たないが、成長するにつれ雄ははだいに大きくなっていく。雄性ホルモンのたたらきでそうなる。雌が結婚相手を見つけた時には、より赤くて大きなトサカをもっている健康で強い雄を選ぶようだ。つ

まり、トサカは雄の性的シンボルになっているのだ。

いろいろな鳥でトサカと同じような役割をもつシンボルを探してみるのもおもしろいぞ!!

(村田浩一)



動物もの知り手帳

鸚鵡(オウム)と鸚哥(インコ)

オウムとインコは良く似ているので、同じ仲間であることは分かると思います。オウムとインコの違いとなるとなかなか分からないのではないのでしょうか。一般的に小型のオウム目をインコといい、大型のオウム目をオウムと呼んでいると思ってるのではないのでしょうか。

王子動物園のインコ舎にはコバタンという30cm程のオウムの隣に90cm程の大きなスマレコンゴウインコがいます。オウムとインコの違いは、色鮮やかなものをインコといい、単色で頭に冠羽のあるものをオウムと呼んでいます。このように誤解されているのは大型のインコが一般化するより先に小型のセキセイインコが大正時代に多量にヨーロッパから輸入されたからです。オウムが日本に輸入されたのは約1300年前で、その頃はアムムとかアムムといわれていたようです。そして、江戸時代にたくさん飼育されたようです。オウムは西暦 647年、日本に初めてクジャクと共に渡来しました。

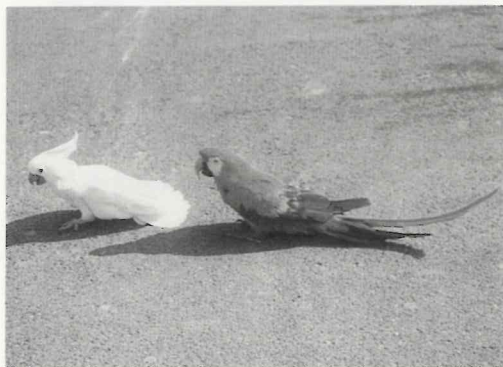
このように、オウムの方が日本人に古くから親しまれています。しかし、オウム科は18種です。これに対してインコ科は 271種もあり、小はセキセイインコ (15cm程) から大はコンゴウインコ (90cm) までいます。地理的にもインコ科は東南アジア、アフリカ、インド、ニュージーランド、オーストラリア、南アメリカなどに分布しています。そして、オウムはオーストラリア、東南アジアに主に分布しています。

このため、オウム目では少数派のオウムも日本に生息地が近いため、日本文化の中にインコより浸透したとも言えるかも知れません。しかし、一般的に市民が飼育し、愛しているのはインコです。オウムもインコも共に良く似ているため、飼いは大きさによって大、中、小に区別する程度で、餌はよく似ていて、飼育しやすい鳥です。色鮮やかなインコ類の方が人気があり、赤、青、緑と生き物の色かと思うほど鮮やかな色です。豊かな都市生活の友として飼育さ

れても良いと思います。また、丈夫で長生き、コンゴウインコなどは60年も生きると言われています。このように愛玩動物に最適と思われるこの鳥も一般家庭には馴染まないのです。それは鳴き声です。物真似をするほど賢い彼らも声の大きさによって都市生活者になれないのです。今、王子動物園にはオウム科はオカメインコ、コバタン、オオバタン、キバタンの4種です。インコ科はセキセイインコからワシトン条約附属書Iに該当するスマレコンゴウインコまで16種68羽います。

オウムは武士がガブトをするように勇ましい冠羽を付けているためにこの字が付いたと考えられます。

インコは派手なので、いなせな兄さんの意味があるようです。ですから中国では昔からオウムとインコは正しく区別されていたようです。



左オオバタン、右コンゴウインコ
(オウム科) (インコ科)

それが日本では数少ないオウムの方が「オウム返し」という諺があるように日本文化に馴染みが深いのはオウムとの長い付き合いの歴史によるものでしょうか。

(加納 至)

動物科学資料館の手引 ⑫

～楽しく見るために～

11回にわたり常設展示について解説してきましたが、今回は本シリーズ最後の締めくくりとして、館内のその他の施設を紹介しましょう。

★特別展示室

ここの展示は、年に4、5回変わり、特別企画や各種催しを行って、資料館に常に新しい風を吹き込んでいます。

第1回「ぬいぐるみで見る野生動物の世界」に始まり、今回のとり年にちなんだ展示「すばらしき鳥の世界」で29回目になります。毎回テーマを設け、動物や自然を取りあげた楽しい展示を開催しています。



★ビデオコーナー

ここには4人用の部屋が3つ並んでいます。どこへ入っていただいても結構ですがカラオケボックスではありません。動物ビデオを見る部屋で、番組一覧表からお好きな番組を選んで見ていただけます。

現在、当園制作ビデオ33種、購入ビデオ77種、併せて110種の番組を用意しています。幼児の方から一般の方まで楽しみながら学んでいただけます。

★図書室

動物のことをもっと知りたい方はこちらへどうぞ。木製のテーブルに本棚のあるこの図書室は一般閲覧室(14席)と、こども図書室(15席)に分かれ、小規模ながらもなかなか明るく、落ち着いた雰囲気がします。

一般向けには約5000冊、児童書は約1200冊と動物や自然に関する本がずらりと並んでいます。また、閉架書庫の雑誌、洋書などを合わせると約12,000点の資料を収蔵しています。残念ながら貸出は行っていないですが、来館者は図書室入

口でチェックしていただければどなたでも図書室の本をご覧いただけます。

専門的な調べ物や、夏休みの宿題調べなど大人から子供まで幅広い層の方に利用していただいています。



★動物園ホール

約300人収容できるこのホールは主に動物園主催の映画会、講演会、サマースクールなどの教育普及活動に使われています。

ステージ、控室、調整室、映写室、ロビーなどの各種施設も充実しており、市民の貸しホールとして利用していただいています。

★ペンギン舎

資料館の西にはペンギン舎が隣接していて、館内休憩ホールからはガラス越しに、ペンギンたちの泳ぐ姿を間近に見ることができます。お昼過ぎにはペンギンたちの食事風景もご覧いただけます。

また当園で飼育している5種のペンギンの説明をはじめ、9枚のパネルを見ればペンギンのことが詳しくわかります。

★休憩ホール

ペンギンに見える休憩ホールでは、日祝祭日に「こども動物相談室」を開いています。また、動物クイズや動物園独自のクリスマス、たなばたなどの楽しい催しも、ここで随時行っています。

★屋上庭園

資料館東にある階段を昇ってください。ここは花や緑にあふれ、六甲の山並みや、神戸の港を一望でき、デートコースにもうってつけです。

これで資料館の展示、施設全てを紹介いたしました。園内の動物を見ながら疑問を持たれた方は、資料館で楽しく学んでくださいね。

(安宅範子)

トピックス

(平成4年7月～5年2月)

◆夏休みの催し

7月27日から8月1日にかけて夏休みの恒例行事であるサマースクールを開催しました。第21回目を迎えた今回は、「キンシコウ・コアラ」をテーマに行い、市内の小学生265人が参加しました。そのほか8月3、4日に動物絵画教室、8月14～16日にお盆休み動物アニメ映画大会を行い、たくさんの方が参加しました。

◆第4回アマチュア動物写真コンクール開催

王子動物園に展示している動物をテーマに毎年開催している写真コンクールです。今年は、6月15日～7月31日にかけて募集し、464点の応募がありました。この中から特別賞7点、入選5点、佳作12点を動物写真家の田中光常先生に選出してもらい、9月27日に動物園ホールで表彰式を行いました。また、応募作品の全点を9月23日～10月20日まで動物科学資料館・特別展示室で展示しました。

◆特別展「ポスターで見る 国内・海外の動物園」(10月24日～11月15日)

王子動物園と交流のある北は北海道から南は沖縄までの約60カ所の動物園・水族館とアジア、ヨーロッパ、アメリカなど海外約20カ所の動物園から送られてきた、ダイナミックな写真、美しいイラスト・水彩画など各園がそれぞれ工夫を凝らして作成した自慢のポスターを約80点展示しました。また、各園のパンフレット、ガイドブック、ステッカー、王子動物園に送られてきた海外動物園からの封筒なども合わせて展示しました。



◆特別展「すばらしき鳥の世界へ」(11月21日～3月14日)

平成5年の干支である「とり」について分かりやすく解説しました。飛ぶ鳥「フラミンゴ」、飛ばない鳥「ヒクイドリ」、泳ぐ鳥「ペンギン」と「人間」の骨格を比べて、ひじやひざの特徴を分かりやすく説明する「骨格比べコーナー」や、鳥の脚の形で鳥を当てるクイズ形式のコーナーが子供たちの人気を集めました。また、世界153カ国から集めた452点の切手を世界地図の上に貼り、どの地域にどんな鳥が住んでいるか一目で分かるような「切手で見る世界の鳥」コーナーや実際にダチョウの卵に触ってもらえるコーナー、鳥の剥製コーナーなども設け多くの見学者で賑わいました。

◆干支引継ぎ式 (12月12日)

平成4年の干支「サル」から平成5年の干支「トリ」へ引継ぎを行いました。たくさんのごどもやTVカメラが見守る中、サル代表のシロテテナガザルからトリ代表の二フトリへ『来年はあなたの年です。がんばってください。』と書かれた引継ぎ書を渡しました。



◆金糸猴研究チームの交替、展示期間の延長

5月13日に中国から来園した、金糸猴の共同研究のための第1次チームの任期が満了し、次のチームに共同研究を引き継いで12月24日に帰国しました。また、第1次チームに替わる第2次チームが12月20日に来園し、さっそく金糸猴の生態調査に関する研究をはじめました。また、10月までの展示期間の延長を中国側に申し入れていたところ認められましたのでお知らせします。

◆コアラに2世誕生! (P5に関連記事)

平成3年9月に神戸市の姉妹都市であるオーストラリアのブリスベン市から贈られた友好動物、クイーンズランドコアラ(M.G.ジュニア♂とジェン♀)の間に初めての赤ちゃんが誕生しました。5月に誕生したのですが、お母さんの袋から顔を出すようになったのは、12月になってからです。今では、お母さんに抱っこされたかわいい姿も見ることができ、動物園No.1のアイドルとなっています。現在、愛称募集中で4月には、かわいい名前がつくことでしょう。

◆「とり年」賀状版画コンクール開催

平成5年の干支である「とり」をテーマに版画を募集しました。今回は、1,900点の応募があり、その中から特別賞7点(裏表紙に写真)、金賞30点、銀賞100点を選出し、1月15日に表彰式を行いました。また、1月14日から2月14日まで、応募作品の全点を動物科学資料館で展示しました。

◆新しい動物たち……夏から春にかけ新しく誕生しました

- モルモット、フタコビナマケモノ、インドオオコウモリ(7月) ●インドオオコウモリ、マール(8月) ●インドオオコウモリ(9月) ●ラマ、アカカンガルー(10月) ●ヤギ(12月)
- アカカンガルー(1月) ●パルマウラビー、マール、ワオキツネザル、ロバ(2月)

「とり年」賀状版画コンクール特別賞作品



①



②



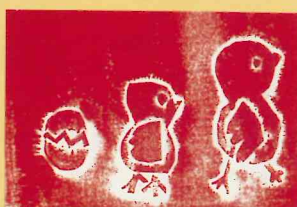
③



④



⑤



⑥



⑦

神戸市長賞

①山南町立久下小学・5年…中村 俊機さん

王子動物園長賞

②箕谷小学・6年……………八幡 貴美さん

神戸新聞社賞

④高槻市……………下野 義祐さん

サンテレビジョン賞

④揖保川中学・1年……………橋本 京子さん

神戸市教育委員会賞

⑤香寺町立中寺小学・3年…奥村 健司さん

神戸市動物愛護協会賞

⑥明照幼……………三上 麻美さん

神戸王子動物園協会賞

⑦豊岡小学・2年……………唐田 雅章さん

◆編集後記◆

桜のつぼみもすっかり大きくなり、いよいよ動物たちにとって待ちに待った春の到来です。春は動物たちのベビーラッシュの季節。コアラの赤ちゃんは一足早くお目見えしましたが、ほかの動物たちはこれからが本番。

アシカの水中生態がガラス越しに観察できる新アシカ池もオープンします。4月から始まるアーバンリゾートフェアでは、楽しいイベントがいっぱい。ぜひ、お越しください。

URBAN
RESORT
FAIR
KOBEL'93
新しい都市魅力の創造

会期：平成5年4月▶9月



はばたき 第33号

平成5年3月20日発行

編集：神戸市立王子動物園
TEL. (078)861-5624

発行：(財)神戸王子動物園協会
TEL. (078)801-5711
神戸市灘区王子町3丁目1

印刷：梶原出版印刷合資会社